

視覚障害者情報センター運営委員会記録

1. 日 時 平成 29 年 7 月 6 日 (木) 13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所 新潟ふれ愛プラザ研修室 (新潟市江南区亀田向陽 1-9-1)
3. 出席者
 - (1) 委 員 井川亨子 (県立図書館・副館長)
石畑健一 (県立新潟盲学校・校長)
市川能里子 (音声訳ボランティア代表)
井上克己 (新潟県視覚障害者友好協議会・会員)
大島光芳 (新潟県中途視覚障害者連絡会・会長)
斎藤義樹 (県視覚障害者情報センター・センター長)
佐藤裕子 (点訳ボランティア代表)
吉田浩 (新潟県視覚障害者福祉協会・理事) 50 音順
 - (2) オブザーバー 野澤正範 (新潟県福祉保健部障害福祉課副参事)、長崎真理 (同主査)
 - (3) 事務局 狩野みさと、浅野歩、近藤風花
4. 議事
 - (1) 平成 28 年度事業報告・平成 29 年度事業計画
 - 【意見】
 - ・情報センターの見学については、小・中学校などに能動的な働きかけを行ってみてもよいと思う。
 - ・新刊を学校 (盲学校) などに定期的に運んで来て、児童・生徒に見せてもらえるとうよい。教員にも情報センターを知ってもらえる機会となる。
 - ・最新の情報機器の操作説明会を、休日型で実施してほしい。
 - 【質問】
 - ・点訳、音声訳及びテキストデジターの 3 媒体で並行して同じ資料を製作することはあるのか。
 - (2) 蔵書リクエストの現状とその対応について
 - 【意見】
 - ・他県の図書館等でも製作されるような資料 (ベストセラー) を、新潟 (センター) が率先して製作する必要はないと感じる。新潟でなくては製作できない内容の資料に重点を置いて製作を検討してほしい。
 - ・プライベートサービスではなく、蔵書として永久利用される資料の、利用者からの

製作（選定）希望を受け付けてほしい。プライベートサービスとする資料の選定の原則が理解しづらい。

- ・合成音声の技術進歩は飛躍的であり、利用の PR をした方がよい。

【情報交換】

- ・県立図書館では、各資料部門別に担当者がおり、週単位で資料の選定と発注を行っている。

(3) 平成 28 年度の利用者アンケート結果から

【意見】

特になし

【質問】

- ・センター職員は、全員が同等の内容の機器操作説明ができると思ってよいか。
- ・センターだより「メールにいがた」の E メール版は、携帯電話のメールで受信可能な文字数か。

【情報交換】

- ・対面朗読で「読んでほしい資料がないから利用しない」というご意見の方には、県立図書館の対面朗読サービスを PR してほしい。県立図書館の蔵書であればすべて読むことができる。

(4) 運営委員会開催要項案について

【意見】

- ・要項の条文については、本委員会で検討すべき。
- ・本委員会での情報交換の内容については、所属の団体に持ち帰り会員に周知することで活用される。開示制限情報という言葉が何を指すのかがわからず、有効な情報共有ができなくなるおそれがある。

(5) その他

- ・視覚障害者への広報媒体として最も有効な手段を教えてほしい。(県障害福祉課)
- ・知らない施設に電話をかけるという行為はハードルが高い。問合せがしやすいしくみを検討すべきである。
- ・図書に限定せず、芸術や美術鑑賞についての情報発信も関係団体で連携していきたい。例えば、大阪の国立民族博物館の取り組みやダイアログ・イン・ザ・ダークなどの情報も提供して欲しい。
- ・「ふれて楽しむツアー（旅行）」を企画してほしいという声もある。

(新潟県視覚障害者情報センターとりまとめ)